

〔目的〕 鎌倉時代に興った数多くの宗派の中でも、殊に禅宗は公家、武家、民衆に与えた影響はきわめて著しいものがあった。中世を通じて京都と鎌倉の二つの政权と文化の中心に支配的な力をふるった学僧宗匠は宋との交流によって臨済宗を伝来し、東西の上層部の信仰を一手にあつめたのである。この宗派をきわめた宗派の装束について考察をめぐり、この臨済宗成立の歴史、構成及び縫製についての調査をすすめた。

〔方法〕 京都市内の社寺、国立博物館、四天王寺国際仏教文学図書館、実物資料により調査研究を行った。

〔結果〕 同一宗派においても各派に分れており、学僧達はそれぞれ別々に大陸に渡り、いるので、同じ国であつても、宋と明代のように区別がなされていると、倭業先の師より賜った法衣や装束などは、寸法や形は同一であつても、地味、縫製方法に多くのちがひがみられた。